西脇市幼児教育センター通信

つなぐん　Vol 8

令和７年 10 月
発行：西脇市幼児教育センター
住所：西脇市和田町 688-47
電話：0795-22-2432
ＦＡＸ：0795-22-3156
Mail：youjikyouiku@city.nishiwaki.lg.jp

☆園小相互参観（こども園参観）☆

相互参観でこども園の保育・教育を参観された小学校の先生方の参観シートには「指導者（教師・保育者）の指導や支援、配慮からの気付き」について、本当にたくさんのご意見が記入されていました。そこでＣｏｐｉｌｏｔにより分析・整理し、まとめることで、小学校の先生方の気付きの視点を共有したいと思います。

① 子どもの主体性・思考力・自立心を育む関わり

・活動の中で、「どうする？」と常に園児が選択できるよう、言葉かけをしたり、促したりされていた。すぐに教えるのではなく、「自分で考え決めること」を大切にされている。
・一斉の活動をするのではなく、それぞれの「したいこと」に基づいてグループ活動をし、協力し合って必要な物を制作していた。
・子どもが頑張っていたり、できたりしたタイミングで、その都度一人一人に声をかけておられ、子ども達のやる気につながっていた。

② 環境構成の工夫による安心感と学びの支援

・教室に掲示してある取組の足跡（ドキュメンテーション）が、園児にとってとても有効的だと感じた。写真を大きくすることで、字が読めない園児も今までの活動を振り返ることができるよう工夫されていた。
・昨日までの活動について写真を使い、振り返りをされていた。また、その日にすることを前日に話されていたので、子どもたちが今日することを分かっていた。

③ 発達段階に応じた支援と関わりの工夫

・小さい子たちへは、より丁寧な支援、大きい子たちへは丁寧でありつつも考えさせる支援へと移行されているのが分かった。
・０～１歳児では、月齢にあったきめ細かい関わりがされており、子どものしたい遊びをおおらかに見守りながら保育されていた。

④ 複数人体制による丁寧な支援

・全体を見る先生、個別で関わる先生の役割がはっきりとされていて、とても丁寧な関わりだと感じた。

・水遊びでは、十分な人数の指導者が配置され、水難事故を防止するシフトが組まれていた。

⑤ 振り返り・話し合い活動での支援と言葉かけの工夫

・５歳児では、活動の最後に、子どもたち同士で振り返りを行っていた。進行も子どもたち自身で行えるよう、先生方は見守りながら必要に応じて声かけをされていた。

・振り返りの際「どうして？」「今ので分かる？」などの発言が続くような声かけをされていた。

・これまでの活動の写真などを見ながら振り返っていた。自分たちがどんなことをしたのかを思い出しやすく、他のチームの活動も知ることができるよう工夫されていると思った。

「指導者（教師・保育者）の指導や支援、配慮からの気付き」について

実際に参観されたことで、こども園の「遊び」は「ただ遊んでいるだけ」ではなく、そこには子どもの興味・関心を土台とした先生方の意図や願いがあることに気付いていただけたのではないでしょうか。子どもたちがいきいきと主体的に遊び、工夫し試行錯誤する力が育まれていくよう個々に応じて援助を工夫し、丁寧に温かい関わりをしていくことなど、参観シートの記述から、こども園の先生方が保育・教育をする中で大切にされている部分が小学校の先生方に伝わり、理解が進んでいると感じ、とても嬉しく思いました。

また、参観された小学校管理職の先生から「もう少し詳しく話を聞きたい」「園小の職員で、その日の保育について話し合う機会がほしい」と事後研修についてのご提案をいただきとてもうれしく思いました。参観された際に感じられた気付きや疑問等について直接話し合う機会をもつことで、より理解が進むとともに、ささいなことでも職員同士が気軽に話し合えるような関係づくりにもつながります。また、実際に話をすることで幼児教育・子ども自身への理解が深まり、より良いスムーズな接続へと進んでいくのではないかと思います。ぜひ、そのような機会を設けていきたいと考えています。

文責：西村